

第6回 大橋川改修に関する環境検討委員会 議事要旨

【Ⅰ】開催日時 平成18年12月20日(水) 10:00~12:00

【Ⅱ】開催場所 松江テルサ テルサホール

【Ⅲ】出席委員

島根大学生物資源科学部教授	相崎 守弘
島根大学汽水域研究センター長	國井 秀伸
島根野生生物研究会	越川 敏樹
島根野生生物研究会	佐藤 仁志
島根大学総合理工学部物質科学科助教授	清家 泰
島根大学副学長	高安 克己
京都大学大学院工学研究科 附属流域圏総合環境質研究センター教授	田中 宏明
鳥取大学地域学部地域環境学科教授	鶴崎 展巨
NPO島根県在来魚保護協会専務理事	中村 幹雄
中央大学研究開発機構教授	福岡 捷二
鳥取大学名誉教授	道上 正規<委員長>

【Ⅳ】配布資料

- 資料-1 議事次第
- 資料-2 第5回 大橋川改修に関する環境検討委員会 議事要旨
- 資料-3 水質予測モデル説明資料
- 資料-4 動植物、生態系に関する環境調査の経過報告
- 資料-5 大橋川におけるヤマトシジミ・ホトトギスガイ調査の経過報告
- 資料-6 大橋川改修に関する環境調査の進め方
- 資料-7 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)提案書

【Ⅴ】議事次第

1. 第5回委員会意見概要 (資料-2)
2. 水質のシミュレーションについて (資料-3)
3. 環境調査の経過報告について (資料-4、-5)
4. 質疑応答
5. その他 (資料-6、-7)

・大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)について

【VI】議事概要

1. 第5回委員会議事要旨の確認

<委員一同 異議なし>

2. 水質のシミュレーションについて

- ・ 非生物体粒子態(P-COD)と非生物体有機物(NL-COD)の違いはなにか？
→ P-COD は河川由来の粒子態有機物であり、NL-COD はプランクトンが死滅したあとの死骸などの粒子態有機物を想定している。<事務局>
- ・ クロロフィル a が「代謝」で減少するというのはどのような現象を想定しているのか？COD であれば理解できる。生物体の COD とクロロフィル a を別に表現したほうが良いのではないか。
- ・ クロロフィル a の考え方については、わかりやすく表現すること。<委員長>
→ わかりやすい表現とする。<事務局>
- ・ NOx が冬場に再現性が低いは何故か。流入負荷の設定上の問題か、またはプランクトンの窒素の取り込み速度の問題が考えられるのでもう少し検討すべきである。
→ 了解しました。<事務局>
- ・ 溶存酸素の変化に伴うリン溶出について、オルトリン酸態リンは観測値がないので検証はできないが、総リンで確認しておくこと。
→ 了解しました。<事務局>
- ・ 窒素、リンについて、下層データのみ表記となっているので再現性について確認することが困難である。生産層である上層のデータも含めて再現性について確認しておくべきである。
→ 了解しました。<事務局>
- ・ バックグラウンドの、佐陀川については、本委員会で改修断面などが提示されるのか。
→ 佐陀川改修事業は島根県の事業であるため、本委員会では佐陀川の改修断面は提示しない。<事務局>

3. 環境調査経過について

- ・ シジミとホトトギスガイについては、大橋川改修によりどのような変化があるかということが重要である。ホトトギスガイの生態・生活史には不明な点が多いため、補足的な調査が必要である。

- ・ ホトトギスガイに関しての追加的な調査としては、環境との関係についての水槽実験や、現地における定点調査などが考えられるので、目的に沿った調査を実施すべき。

→ アドバイスを頂きながら検討していく。〈事務局〉

- ・ 魚類の移動について、大橋川は単なる移動場所ではなく、成長の場でもあることを考慮すべき。

→ 了解しました。〈事務局〉

- ・ 様々な魚類の餌となっているイサザアミの現存量の調査が必要ではないか。
- ・ イサザアミは様々な魚類の餌となり、生物生産の基礎となっているが、資源量を調査把握することは困難である。

→ 大橋川改修に関する環境調査とは別に、必要があれば実施する。〈事務局〉

- ・ 剣先川北岸の湿性地上における動植物の生息環境などの調査はされているのか。工事等によりかなり変化するのであれば、生息環境への配慮が必要である。
- ・ 剣先川についてはシジミが多く生息しているうえ、ハゼ等の移動経路ともなっているため、しっかりと検討すべきである。

→ 予測評価を行い、必要であれば保全措置の検討を行う。〈事務局〉

- ・ 水質予測モデルについては、実測値と計算値の差が出ているところがあるので、検証あるいはモデルの精度向上に努めること。〈委員長〉
- ・ 環境調査の経過報告については、貝類についての検討や、湿性地上の生息環境についての検討を追加していくこと。なお、調査対象を取捨選択すると共に、調査方法については、委員と個別に相談し、指導を仰ぐこと。〈委員長〉

4. その他

- ・ 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)について、「まちづくり委員会委員長」及び「まちづくり委員会事務局」より紹介。

5. 今後の予定

- ・ 今年度はあと1回の委員会開催を予定している。〈事務局〉

以 上